

平成27年度第4回府中市公共施設マネジメントモデル事業検討協議会議事録

▽日 時 平成27年11月19日（木）午後4時から5時30分

▽会 場 片町文化センター 第1会議室

▽出席者 委員側 山本会長、木村委員、正木委員、近藤委員、澤田委員、内藤委員
(6名)

欠席者 谷合委員

事務局側 間宮行政管理部長、村越行政管理部次長（兼）財産活用課長、日原建築施設課長、梶田建築施設課長補佐（兼）公共施設マネジメント担当副主幹（兼）保守管理担当主査、南学建築施設課公共施設マネジメント担当主査、矢ヶ崎生涯学習スポーツ課長、山田総務課学校施設担当主幹

※その他関係課職員も出席

▽傍聴者 1名

次第：

1. 議題

(1) 学校施設の活用に向けたアンケート調査の結果

ア. 市民アンケート

イ. 児童生徒アンケート

(2) 学校プールの活用に向けた再整理

(3) 今後の検討スケジュールについて

2. その他

【配布資料】

資料1 学校施設の更なる活用に向けた市民アンケートの結果

資料2 プールの利用に関する児童生徒アンケートの結果

資料3 学校プールの一般開放検討シート

資料4 プール管理運営事業に対する事務事業点検の結果及び市の方針

資料5 検討スケジュール（修正版）

(開会)

事務局

皆様こんにちは。ただ今より「平成27年度第4回府中市公共施設マネジメントモデル事業検討協議会」を開催いたします。

委員の皆様におかれましては、ご多用のところ本協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

事務局より配布資料の確認をさせていただきます。

(※事務局 資料確認)

資料は以上でございます、会長、よろしく願いいたします。

会長

それでは、第4回府中市公共施設マネジメントモデル事業検討協議会を開催します。皆様、本日もどうぞよろしく願いいたします。

始めに、本日の委員の出席状況及び前回の協議会の議事録について、事務局から報告をお願いします。

事務局

まずは、本日、谷合委員より欠席の連絡をいただいていることをご報告いたします。

次に、前回の協議会の議事録につきましては、事前に委員の皆様にご確認いただいたなかでは、特に修正のご意見は出されておられません。修正点がございましたらご指摘くださいますようお願いいたします。

会長

前回の議事録について修正箇所などありましたらお願いします。

それではないようですので、続いて、本日の傍聴者について、事務局よりお願いいたします。

事務局

本日の傍聴につきましては、1名の応募がございました。委員の皆様の承認を得て、傍聴希望者に入場していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

会長

傍聴希望者の入場を許可してよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

(傍聴者入場)

会長

それでは、議題に移ります。

議題（１）「学校施設の活用に向けたアンケート調査の結果 ア．市民アンケート」について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局

第２回の検討協議会で概要をご報告しておりましたが、学校プールの一般開放も含め、学校施設の更なる活用に向け、市民アンケートと児童生徒アンケートを実施いたしました。その結果について、始めに市民アンケートをご説明いたします。

資料１をご覧ください。

市民アンケートは、無作為抽出した２０歳以上の市民３千人を対象に、郵送で実施したものです。内容は、学校施設の一般開放や複合化に対する意向を確認するもので、回答者数は１,０１３人、回答率は３３.８％でした。

次に、２ページをご覧ください。

こちらには、回答者の属性を記載しておりますが、年齢別の回答者数に記載のとおり、幅広く回答が集まっていることがわかるかと思えます。

次に、３ページには回答者の住所を、４ページでは公共施設マネジメントに取り組むに当たっての各種方策について、実施すべきかどうかの回答をまとめております。こちらの設問は、毎年アンケートを行う際には必ず確認しているもので、いわゆる総論に関する内容でございます。記載の方策について、「実施すべき」から「実施すべきではない」までの４段階で聞いており、結果の詳細は５ページの棒グラフをご覧ください。実施について肯定的な意見と、実施について否定的な意見を比べた場合、統廃合を行う「総量圧縮」や、民間のノウハウなどを活用する「公民連携」、建物を長期間使用する「長寿命化」などは、肯定的なご意見が多くなっております。一方で、地域住民が施設を管理する「地域への移管」や、サービス水準を引き下げる「水準引下げ」は、否定的な意見が多くなっております。なお、この結果は、毎年みられる傾向と同様のものがございます。

次に、７ページをご覧ください。

こちらは、学校施設の一般開放の利用頻度についての設問です。まず、現状の学校施設の一般開放については、２割程度の方が利用したことがあり、残る８割程度の方は、利用したことがないという結果でした。また、利用したことがあるという方の利用回数については、月に数回と定期的な利用者がある一方で、過去に数回、またはほとんど利用していない方もおり、利用頻度は２極化している状況がみられます。

次に、８ページをご覧ください。

こちらは、学校の各種教室が広く利用できるようになったら、どこを使いたいかを聞いた結果として、利用したい教室はないという回答を除き、最も多かった回答が図書室でした。そのほか多かったご意見としては、家庭科室や音楽室がありました。

次に、9ページをご覧ください。

こちらは、学校プールの一般開放について、開放したら利用するかどうかを聞いたものです。なお、開放するに当たっては、屋外プールで、更衣室やトイレなどは学校の施設を使用すること、また、監視員が常駐し、日中のみの開放であることを条件として設定しました。その結果、基本的には、利用しないという回答が多数となっております。ただし、近ければ、または無料であれば利用するという声もあり、それらも含めると、利用する、しないの答えは半々になるという状況でした。ただし、これらの条件について、どの程度の水準を求めているのかという点は個人差がございますので、基本的には始めに申しあげたとおり、学校プールを開放しても利用しない市民が多数を占めるのではと考えおります。

次に、10ページをご覧ください。

こちらは、市営プールの利用状況をまとめており、結果としては、約8割の方が利用しておらず、特に学校プールと形状が似ている地域プールの利用者は、2、3%程度でした。

次に、11ページをご覧ください。

プールを利用しなかった方に、利用しなかった理由を選んでもらった結果ですが、「利用する必要がない」という回答が7割近くを占めておりますので、利用しないのは、施設の問題というよりも、ニーズの問題かと考えられます。

次に、12ページをご覧ください。

プールの利用者を増やすためにはどのような要素が必要かという設問に対しては、「きれい」、また「室内」という回答が多くなっております。

次に、13ページをご覧ください。

学校施設について、どのような施設と複合化するのがよいかと聞いた結果、学童クラブや保育所などの子育て支援施設、また既に避難所として指定されているということもあり、災害時に利用できる施設といった回答が多数を占めました。その他には、地域の身近な施設としての利用を想定した回答もいくつかみられました。

最後に、14ページをご覧ください。

学校施設の複合化に当たっての必要な点を自由記述で挙げてもらった結果を記載しておりますが、児童生徒の安全面への配慮、また、地域の施設として重要性などが挙げられました。

以上が、市民アンケートの結果についての説明でございます。

会長

ありがとうございました。市民アンケートの結果について、ご質問やご意見はございますか。

委員

資料5ページの「公共施設マネジメントの方策について」の設問の中で、料金引上げを実

施すべきという回答が50%を超えているのは目を引きます。この設問を作成するなかで、料金引上げを想定している施設はどのような施設がありますか。

事務局

モデル事業の対象となっているプールのように、既に使用料をいただいている施設の料金を引き上げるだけでなく、公民館のように、現在は原則無料で利用されている施設の有料化も含めて、公共施設全体を対象とした質問として設定いたしました。

なお、これまでも同様の内容のアンケートは実施してまいりましたが、毎回50%前後で賛成反対が分かれている状況がみられます。

委員

8ページの、学校施設の中で利用したい教室についての設問ですが、下の段の「上記以外で利用したい教室」として、音楽室が図書室や家庭科室に次ぐ回答者数となっています。それにも関わらず、音楽室を上記施設と一緒にまとめて記載していない理由は何ですか。

事務局

図書室、家庭科室及び理科室については、アンケート作成時に回答者数が多いであろうと予想し、選択肢として用意したものです。一方、音楽室については、それら3施設以外で回答者が自由記述で挙げてきた教室名であり、その回答は「上記以外で利用したい教室」としてまとめています。

委員

自由記述とはいえ、音楽室は多くの方が回答していますので、図書室、家庭科室、理科室と一緒にまとめたほうがよいと思います。

事務局

最終的なとりまとめの際には、そのように対応いたします。

委員

9ページの設問では、回答者の割合が合計100%を超えていますが、なぜですか。

事務局

複数回答も可能とした結果、単純に足しますとそのような結果となります。

委員

13ページで、学校施設と複合化する場合に効果的と思われる施設として「学童クラブや保育所などの子育て支援施設」という意見が一番多いですが、府中市では待機児童は多いのでしょうか。

事務局

待機児童は多い状況です。何名ということはすぐに申しあげられませんが、都内では、世田谷区に次ぐぐらいの多さです。

委員

次回、待機児童のデータを示してください。

事務局

資料としてお示しいたします。

委員

まず、アンケートの中で、温水プールにすると利用率が上がるのではという答えがありますが、10ページの生涯学習センター温水プールの利用者数の割合は9.8%となっていますので、その考えには疑問が残ります。利用者数を増やすためにはどうすればよいか、もう少し考える必要があると思います。

次に、13ページの学校の複合化についての意見で、「学校施設の複合化は行うべきではない」という意見の割合が4.9%であり、予想以上に低いと思いました。この結果から、総論としては、市民は学校の複合化に賛成していると感じますが、事務局はどう考えていますか。

事務局

市では、今まで様々な場所で公共施設マネジメントの取組について、市民の方々と意見交換会等を行ってきましたが、その中でも学校施設の複合化については一部厳しいご意見をいただいた場面はございました。市内では、学童クラブのように、学校と隣接した場所に他用途の施設を整備している事例はありますが、学校と同一の建物で複合化を行った事例はないこともあり、学校施設の複合化については難しい面があるかもしれないという印象を持っていました。しかし、今回のアンケートの結果を見ますと、「学校施設の複合化は行うべきではない」という回答は少なくなっておりますので、その結果は今後の取組につなげていくことができるかと思えます。ただし、今後具体的な形がみえてくると意見が変わるという可能性も考慮しておく必要はあるかと考えております。

委員

プールの利用者数については前回の資料でも示されている通り、少ないと感じました。12ページのプール利用者数を増やすために必要と思われる要素についての設問で、「きれいなプール」が一番高い回答数となっています。回答者は、きれいなプールというものを具体的にどのようなものと想定しているのでしょうか。

事務局

断定はできませんが、水質がきれいといったことではなく、更衣室やトイレ等を含めた施

設全体の清潔さ、また雰囲気といった印象面も含めて言っているのではないかと考えております。小中学生の頃に使っていた市民プールや学校プールなどを思い出して、回答されたのかもしれませんが。何をイメージして「きれいなプール」と回答されたのかという点につきましては、少し精査する必要があるのではと感じています。

委員

プールを利用していない方が多い中での回答ですので、理想的なイメージで回答されているのではないかと思います。実際には、現在の施設を見たことがない方もいると思います。

事務局

プールの利用者数が少ない状況ですので、実際に市のプールの状況を知らずに回答されている方も一定数はいらっしゃると思います。ただ、少なくとも現在のプールが「きれい」かどうかという点は、老朽化は進んでいる状況ですので、人によっては、きれいではないという印象を持ってもおかしくはないと思います。

委員

学校の複合化について、総論としては賛成ですが、現場で働いている教職員の方の意見なしに進めてよいのか疑問です。

事務局

これまでアンケートでいただいたご意見の多くは、実際には学校を普段利用していない方のご意見で、それは貴重なご意見ではありますが、やはり現場の教職員の方々の声も聞いて、最終的には方向性を定める必要があると考えております。

会長

利用者を増やすという点では、プールをただ泳ぐだけの施設ということではなく、様々な施設と複合化することも考えられます。民間ではカフェ等を入れておしゃれにしているプールもありますが、市営プールでどこまでできるかという問題もあります。また、市営プールでできても学校プールとしてできるかという問題もありますので、議論は必要です。

趣味の多様化もあり、プールの利用者数は少ない現状ですので、そのことを踏まえて今後の方向性を考えていかなければなりません。利用状況を考慮して、プールを含めた公共施設全体の総量について検討しなければなりません。全てを残すわけにはいかない中で、残す施設を選択することになります。

文科省は、学校施設と他の公共施設等の複合化を推進しています。府中市はまだ人口が増加傾向にあるため、すぐには対応できない部分があるとは思いますが、児童数が減少する時期を見据えて、対応する時期の検討は始める必要があると思います。

続いて、議題（１）「イ．児童生徒アンケート」について、事務局より説明をお願いいたし

ます。

事務局

市立小中学校の児童生徒を対象に実施した、児童生徒アンケートの結果についてご説明いたします

資料2をご覧ください。

この児童生徒アンケートは、地域プールの配置状況を踏まえ選出した、市立の小学校8校、中学校4校、計12校の児童生徒約7千人を対象に、直接配付し実施したものです。内容は、プールの利用状況や利用希望を確認するもので、回答者数は5,561人、回答率は77%でした。

2ページをご覧ください。

こちらには、回答者数を学年別に記載していますが、全学年10%前後となっています。

続いて、夏休み中のプール利用の有無についてですが、小学生については、ほとんどの子どもが何かしらのプールを利用している状況となっています。一方で、中学生は、特に学年が上がると、利用者の割合が減少する状況となっています。

次に、3ページをご覧ください。

プールの利用回数については、小学生は5回以上という回答が7割以上を占める一方、中学生は、5回未満が8割以上を占める結果となりました。小学生の利用回数が増える理由といたしましては、学校プールの水泳指導の参加回数の差も要因の1つとして考えられます。

次に、4ページをご覧ください。

こちらは、利用したプールをまとめたものです。地域プールは、小学校5年生をピークにして、その後学年が上がるほど利用者の割合が少なくなっています。小学校プールは、小学校低学年の子どもは多数利用していますが、中学生は少なくなっています。総合プール、温水プール、その他の民間プールについては、全学年同じような状況となっています。

次に、5ページをご覧ください。

プールを利用した理由、利用しなかった理由を記載しています。まず、利用した理由として、全学年合計では「楽しいから」、そして、「友達と遊べるから」という理由が多数を占めますが、小学校低学年の子どもを中心に、「泳ぐ練習をしたいから」という回答も多くなっており、これは、水泳指導に多数参加している状況と結びつくかと思われれます。一方、利用しなかった理由としては、「行く時間がないから」という回答が全学年共通して半数以上を占めています。夏休み期間中、様々な時間の使い方があると思いますが、特に学年が上がるごとに割合が高くなっている状況をみますと、塾や習いごと、部活の影響もあると推測されます。また、「行きたくなかったから」という理由も一定の割合で全学年にみられます。

次に、6ページをご覧ください。

こちらは、学校プールを一般開放したら利用するかどうかをまとめたものです。小学生の9割、中学生の5割は「行きたい」という回答でした。これは、最初の設問である、夏休みのプール利用の有無の結果と同様の傾向となっています。

続いて、学校プールの一般開放に行きたい理由としては、「泳ぎたい」、「遊びたい」という

理由が上位になりました。学校プールだからといって特別な場所を望んでいるのではなく、遊ぶ場所の1つとして考えていることがわかります。

次に、7ページをご覧ください。

学校プールの一般開放に行きたくない理由につきましては、全学年合計では、「汚いから」や「夏休みに学校に行きたくない」という理由が上位となっています。その他の理由としては学年が上がるにつれて「泳ぎたくないから」という理由が多くなったり、学年が下がるにつれて「遊具がないから」という理由が多くなったりという状況です。

続いて、子どもたちが理想とするプールは何かということですが、全学年合計では「自由に遊べるプール」という回答が多くなっています。その他の理由として、学年が上がるにつれて「きれいなプール」、小学生は「遊具があるプール」、中学生は「室内プール」の回答がそれぞれ多い状況です。

最後に、8ページをご覧ください。

本アンケートの結果を、地域プールの見直しや学校プールの開放にどのように活かしていくかという点についてまとめております。

1点目は、プールを利用したという3,746人の小学生のうち、地域プールだけ利用したという小学生は126人、全体の3%程度であり、子どもたちは複数のプールを利用している実態がわかりました。この結果を踏まえ、行政が用意するプール機能をどの程度とすればよいか、学校プールを開放するのであれば、どのぐらいの日数、そして学校数で実施するのがよいか等を考える必要があります。

続いて2点目は、プールに「行かない」理由として、「汚いから」という回答が多くありまので、既存施設のまま開放できる学校プールは非常に少ないのではないかと考えられます。開放のためには、一定の改修をセットで考える必要があります。

最後に、市民アンケートの結果も踏まえ、地域プールの利用状況や学校プールの利用意向を見ますと、学校プールを一般開放した場合の利用者は、小学生が中心になることが推測できるため、1つの案として、利用者を「小学生」と限定して実施することが考えられます。そのメリットとして、1つは、既存設備の活用と機能向上が考えられます。既存施設を改修して使うことで、通常の水泳授業で使う場所としての機能向上も図ることができます。もう1つのメリットとしては安全性の確保が上げられます。

しかし、今回のアンケートでは未就学児の利用状況はわかりませんので、学校プール開放の検討にあたっては、さらに未就学児のニーズも把握する必要があるかもしれません。

以上が、児童生徒アンケートの結果についての説明でございます。

会長

ありがとうございました。児童生徒アンケートの結果について、ご質問やご意見はございますか。

委員

8ページに、学校プール開放の1つの案として、利用者を小学生に限定する案が挙げられ

ていますが、これでは、これまでと同様の使い方で使用期間を延ばしただけではないですか。

事務局

学校プール開放につきましては、地域プールの廃止と一体で検討しなければならないと考えております。その地域プールの利用者の多くは小学生であるため、水深等が小学生に適した小学校プールならスムーズに移行できると考えました。大人にも開放する場合は、大人も想定した設備を整備する必要がありますし、校舎内への大人が出入りを好ましく思わない保護者の方がいらっしやるかもしれません。以前の協議会で、プール開放の事例を紹介したなかで、プールによって子ども限定、大人限定と利用者を限定するというのも他の自治体では行われていますので、1つの案として、小学生限定で開放するというのも考えられると記載したものです。

また、機能面では、現在の水泳指導において浮き輪等の遊具は使用できませんので、学校プール開放に伴って遊具の使用を許可することで、対象は変わりませんが、利用する児童の遊びの選択肢を増やすことにつながります。

会長

資料のような形で考え方を記載してしまうと、市の決定事項として捉えられてしまう可能性があります。

設備投資がほとんどかからなくて済むという考えがあるのかもしれませんが、子どもだけでなく保護者の方が一緒に来る場合の問題があります。また、その考え方では小学校プールしか開放しないことになるので、中学校プールはどうするかという問題もあります。

アンケートの結果と課題について記載するのはよいですが、この児童生徒のアンケートだけでは、そこまでの結論は導き出せないと思います。

また、5ページの、プールを利用しなかった理由について、「行く時間がないから」という回答が最多数ですが、本当は行きたかったのに行けなかったというニュアンスを持って回答している可能性もあります。仮に、近くにプールが整備された場合、「行く時間がないから」という回答者が、実際にプールを利用するのか、または利用しないのかがはっきりしません。そのことについても検討する必要があると思います。

ちなみに、今の学校は更衣室やトイレはしっかり整備されているのでしょうか。

事務局

建替え等で新たに整備した学校のプールは、更衣室やトイレはきれいに整備されており、教職員の方からの評判もいいですが、その他ほとんどの学校は老朽化が進んでおり、一部の学校では、教室で着替えているというのが現状です。

会長

そのような状況であれば、一般開放を実施する前に、まずは改修することが必要だと思います。

事務局

老朽化だけではなく、更衣室のレイアウトの問題もございますので、ご指摘の通り、一定程度の改修は必要かと考えています。

会長

改修が必要ということなり、財政上の問題から全ての施設の改修はできないということになれば、どの施設を残すかという選択をしなければなりません。

委員

このアンケートの成果は、2、3ページでもわかるように、小学生と中学生で明らかにプールの利用頻度に差があるということ把握できたことだと思います。ですので、8ページのまとめには、そのように記載すればよいと思います。

事務局

小学生と中学生は利用の有無、また利用頻度に明らかな差があり、それは中学2、3年生と学年が上がるにつれて顕著になっています。小学生の利用が多い理由としては水泳指導の要素もあると思いますが、それ以上に、ニーズに大きな差があると思われれます。

委員

中学生は、部活や受験勉強で忙しいという事情もあると思います。

会長

続いて、議題（2）「学校プールの活用に向けた再整理」について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局

学校プールの開放につきましては、これまでも利用状況や地域プールの状況などをお示しし、議論してまいりましたが、それらの情報を再整理し、今後に向けた具体的な策を今回議論いただければと考えております。

資料3をご覧ください。

まずは、資料の見方についてご説明いたします。

各学校にあるプールのうち、プール単独で整備されている場合は立方体1つで示しているのに対して、体育館・武道場の上に整備されたプールは、2段の立方体で示しています。なお、建物の上に整備されるプールは、一部中学校に設置されています。また、地域プールは、性質の違う美好水遊び広場を除き、赤丸で示しており、幼児用プールも整備されている場合は、2つ赤丸を並べた形としています。

次に、色分けですが、3種類に分けてあります。おおまかに申しあげれば、青い色が開放に適しているプールで、黄色、赤の順に、開放に当たって整理すべき課題があるということ

になっています。具体的に見方を申しあげますと、学校プールを示す立方体の色については、そのプールの老朽化の程度を示しており、整備後、20年以下が青、21年から40年までが黄色、41年以上が赤色となっています。続いて、立方体の枠の色については、夏休み期間中の学校プールの空き日数を示しており、21日以上が青、11日から20日までが黄色となっています。なお、赤色が示す10日以下の学校はありません。最後に、学校名の背景色につきましては、学校プールの使用時に利用するトイレや更衣室の老朽化の程度について、青色が使用可、黄色が使用できるが改修が望ましい、赤色が現在使用停止となっています。

以上のような見方を踏まえ、資料を改めてご覧ください。なお、各地域プールの半径500mの範囲は赤丸で示しております。

始めに、市内中心部にある市民プールについて、周辺には第一小学校があります。プールの老朽度は赤で41年以上経過、空き状況は青で20日以上、トイレや更衣室は黄色で改修が望ましい状況です。

次に資料の右上、新町プールについて、最も近い学校プールは第五中学校です。プールの老朽度は黄色で整備後21年から40年、空き状況は青で20日以上、トイレや更衣室は青色で使用可の状況です。ただし、学校プールが建物上にあるため、動線やセキュリティ面等の課題整理が必要となります。

次に、資料の右側、白糸台プールについて、最も近い学校プールは第二中学校です。プールの老朽度は黄色で整備後21年から40年、空き状況は黄色で11日から20日、トイレや更衣室は青色で使用可の状況となります。ただし、こちらも第五中学校と同様に、建物上のプールであるということは考慮しなくてはなりません。

次に、資料の右下、小柳プールについて、500mの範囲には学校プールはありませんが、最も近い学校プールは小柳小学校です。老朽度や空き日数などについては、第一小学校と同様です。

次に、資料の左側、西府プールについて、最も近い学校プールは第五小学校です。プールの老朽度は青色で20年以下、空き状況は青で20日以上、トイレや更衣室は青色で使用可の状況です。

最後に、資料の上側、武蔵台プールについて、周辺には3つの学校が近接している状況です。そのなかで、最も近い学校プールは第七中学校です。老朽度や空き日数などについては、第二中学校と同様となります。

なお、資料の2枚目には、参考として、色分けしている情報を一覧にした表を添付しておりますので、そちらも後ほどご確認ください。

続いて、資料4をご覧ください。

学校プールの一般開放とともに議論しなくてはならない地域プールについて、平成25年度に実施した事務事業点検、いわゆる事業仕分けの結果をまとめた資料でございます。

事務事業点検の概要は省略いたしますが、点検のなかで、学校プールの活用や地域プールの廃止、統廃合などの意見が挙がりました。この点を踏まえ、本市の方針として、「施設のあり方については、公共施設マネジメントに関する取組のなかで、総合的に検討する」とまとめております。このことから、地域プールについては、学校プール開放とともに今年度の協

議会における議論を踏まえ、具体的な見直しを進めていくこととしております。委員の皆様には、このような経緯も踏まえ、様々な視点からご意見をいただければと思います。

以上が、学校プールの活用に向けた再整理についての説明でございます。

会長

資料4によると、事業仕分けで出た、地域プールのあり方に関する意見に対して、市が「公共施設マネジメントに関する取組のなかで総合的に検討する」と結論づけているということですね。

事務局

はい、そのような形で市の考え方を定め、現在に至っております。また、この考え方については公表もしております。

会長

資料3について、この資料を見ると全体的な老朽度合、空き状況、開放する場合の改修の必要性が一目でわかります。また、地域プールの位置関係も分かります。

施設が新しいということもあり、すぐにでも開放できそうなのは第五小学校なのではと思いました。しかし、他のプールも課題があるので、それらを改修し、いくつかの施設を同時並行で進めるのが良いと思います。資料4のとおり、事業仕分けもされているので、地域プールについては個別ではなく、全体的に考える必要があると思います。前回の協議会の資料では地域プールの利用者数が減少している現状も確認できましたので、廃止することもある程度仕方がないと思います。その代わりに、他の施設に一定の投資をしながら進めることが重要だと思います。

また、学校プールの開放に当たっては、先生の負担が増えてしまうかもしれないので、先生の意向も踏まえて慎重に進めなければなりません。先生以外の方に運営を行ってもらう場合でも、セキュリティの問題等、確認することがあります。

市としては、何か考えはありますか。

事務局

財政上の課題もあり、全ての施設を改修し、維持していくことは困難であると考えておりますが、単に廃止するというだけでなく、改修する部分については機能の向上を図るといったことを併せて行う必要があると考えております。

また、近くに新しい学校があるという理由だけで地域プールを閉鎖し、その学校プールを開放するといったことではなく、ニーズに合わせて開放する場所や数を検討しなくてはならないと考えております。

会長

「府中市公共施設マネジメント白書」に載っている公共施設の今後の更新費用推計結果で

は、近年の年平均37億円に対して、今後40年間の年平均は70億円と、倍近くかかる見込みとなっています。この結果を踏まえると、何らかの対策を、いくつかの施設を同時並行で進めていかなければなりません。また、進めていく際には、単に利用者ということではない、幅広い市民の意見やアンケート結果を重視して進めていく必要があります。今回のプールの例で考えますと、アンケート結果から地域プールの利用者の中では、特に中学1年生以下の子どもの利用が多い状況ですので、もし学校プールを開放するとしたら、利用者が重なる地域プールのあり方についても考える必要があります。このようなことをプールだけではなく、公共施設全体に広げていかなければなりません。本協議会の場で、最終的な結論を出さなくてもよいですが、早急に検討する必要があります。

事務局

資料3では、地域プールの周辺にある学校をわかりやすく示すため、半径500メートルの円を示していますが、必ずしもその円の中にある学校プールを開放しようということではありません。そもそも、地域プールの数が現在のニーズと照らし合わせて、適切なのかということは、これまでの資料からも見直す必要があると考えておりますので、地域プールと全く別の位置にある学校プールを開放するというのも1つの考え方としてあるのではと感じております。

委員

地域プールの利用者が減少している状況ですので、本来であれば、減少している分は施設を削減すべきですが、公共施設ですのですぐに削減は難しいと思います。しかし、限られた財源の中で有効な投資を行うためには、必要な改修を行い、学校プールで地域プールを代替することが良いと思います。どの学校から開放するべきかという問題がありますが、第五小学校のプールが新しく、設備がしっかりしているプールだとするならば、試験的に、第五小学校から行ってはどうかと思います。1校実施することで課題等が出てくると思いますので、それから府中市全体に広げていけば良いのではないのでしょうか。あるいは、既に改修が急務な学校プールがあるとするれば、開放前提に改修して、そのプールも一緒にモデルとして実施してもよいと思います。

会長

動線やセキュリティの問題もあると思いますが、まずはどこかで実施してみたら、配置等も考えて府中市全体に広げていけば良いと思います。総合プールや温水プールについては残す考えがあるとするれば、それを踏まえて配置を検討すれば良いと思います。

委員

資料では、地域プールから半径500mを1つの基準としています。これは子どもの行動範囲を想定してのことかもしれませんが、実際の行動範囲はもっと広いと思いますので、仮に地域プールがなくなり、開放された学校プールが少し離れた場所にあったとしても行くこ

とは可能であると思います。

また、学校プールを開放する際に、先生の負担が増えてはいけないと思いますので、民間事業者に管理業務を委託して実施するのがよいと思います。

委員

私も皆さんの意見に賛成です。

資料1のアンケート結果では、総量圧縮については76%の方が、長寿命化については81%の方が賛成している一方で、水準引下げについては否定的な意見が多い状況です。その結果を踏まえ、できるだけ長寿命化を図りながら、地域プールの果たしている役割を維持する形で学校プールを有効活用する考えを打ち出せば、市民の方々の賛同も得られると思います。

委員

資料4の事業仕分けの結果を踏まえると、早急に進める必要があると思います。

やるべきことより、先にやらないことを決めなければ、必要なところに予算をかけられず、中途半端になってしまいます。そのため、地域プールには費用をかけない方に分類し、その分の予算を学校施設等にまわす必要があると思います。

学校はひどく老朽化が進んでいますので、必要な改修を行った上で、子どもの遊び場としてプールを開放したいという考えがあるのなら、実施すれば良いと思います。

現場の先生の意見を取り入れるという話がありましたが、先生は実態をよく把握されていて、学校施設の中で危険な箇所等もわかっていますので、早急に先生と市の職員の方で協議をしていただきたいと思います。

会長

ほとんどの学校で老朽化が進んでおり、投資できる金額が少ない中では、何かをやめるという選択もしなければなりません。

委員

プールは、夏休み期間の1ヶ月程度しか使用しないため、もったいないと感じる面もあります。そのことも踏まえて、今後のプールのあり方を検討したほうが良いと思います。

会長

それでは、事務局は次回までに委員の皆さんの意見をまとめ、整理してください。

続いて議題(3)「今後の検討スケジュールについて」、事務局から説明をお願いします。

事務局

今後のスケジュールについてご説明いたします。

これまで、本協議会では、学校施設の更なる活用策について、学校プールの一般開放という比較的わかりやすいテーマをきっかけに、今後の学校施設の複合化というテーマまで広げて検討するということを、事務局より説明してまいりました。

しかし、非常に幅広いテーマである学校施設の複合化について、協議会で整理するためには、事務局側の基本的なスタンスがはっきりしていないと難しいというご指摘を、前回の会議でいただいております。

このことから、今年度の本協議会における検討内容といたしましては、大きくは2点とし、1つは、これまでも議論してまいりました学校プールの開放に係る考え方について、そしてもう1つは、学校施設の複合化の検討を行う前に、学校施設の活用という視点から、市として早急に整理しなければならないことについてです。この2点をまとめるということで、今後進めていきたいと考え、修正させていただきました。

市の施設全体の約4割の延床面積を占める学校について、このまま、老朽化したから安易に建替えや改修を実施することは避けなければならないなかで、速やかに活用に向けた検討に入るためにも、今年度は先ほど述べた2点について議論していきたいと考えております。具体的には、前回の会議でも出ていましたが、「学校施設の建替えを検討する際には、既存施設のような鉄筋コンクリート造にこだわらずに考えるべき」といった点や、「他施設と複合化することで、学校施設の建て替えによる効果を高めることも考えられる」といったことを、改めて整理していければと考えています。

今後のスケジュールといたしましては、次回の協議会時にそのような議論を行うとともに、報告書の案を資料として作成しますので、そちらにご意見をいただき、2月に行う第6回の協議会において、最終確認とともに、可能であれば同日に市長への報告を行いたいと考えております。

以上が、今後の検討スケジュールについての説明でございます。

会長

ありがとうございました。今後の検討スケジュールについて、ご質問やご意見はございますか。

委員

資料1の13ページ、学校施設を複合化するのに効果的と思われる施設の回答で、「学童クラブ」、「保育所」、「高齢者のデイサービス」という回答が高かったのは納得ができます。八王子市でも学校施設と複合化する施設として優先的に考えられるのが、「学童クラブ」、「保育所」、「高齢者のデイサービス」ということです。行政の考えとしてもそのあたりが一般的であると思いますが、府中市として学校施設との複合化の優先度が高い施設の候補がありましたら、今後の議論がしやすいと思いました。

事務局

府中市における取組と国の実施したアンケートも踏まえ、資料を作成します。

会長

府中市に現在必要な施設として子育て支援施設が挙げられますが、自治体によって完全に民設民営で行うところもあれば、公設民営等で行うところもあり、様々です。府中市としてはどのような考えですか。

事務局

子育て支援施設のニーズは非常に高いと考えております。保育所で申しあげれば、現在公設公営で行っている保育所は機関保育所として残す一部の施設を除き、今後民設民営に変えていく予定です。それに加え、待機児童の解消に向け、市有地を民間に貸付け、民設民営の保育所を増やすといったことも行っております。

また、学童クラブについては、現在、各学校に整備をし、定員を設けずに受け入れている状況です。建物については、学校とは別棟となっており、他自治体でみられるような、学校施設と複合化するといったところまでは進めておりません。

会長

さいたま市は複合化を検討しているので、直接聞いてみるのもいいと思います。

事務局

ただいま申しあげた点は、あくまでも公共施設マネジメントの視点からどのような活用が考えられるかといったことであり、学校施設の複合化について、これまで市における議論が進んでいない状況ですので、現段階では、市としての考え方を述べることは難しい状況です。

会長

現状では議論されていないかもしれませんが、今後の方向性を決める上でも様々な事例を調査したほうが良いと思います。

委員

学校施設を民間の高齢者のデイサービスに貸すことは、市として問題はないのでしょうか。

事務局

進めるに当たっての課題はあるかと思えます。

会長

実際に松山市で、高齢者のための施設として施設を貸し出し、市が賃料収入を得ている事例があります。

委員

ぜひ実施していただきたいです。事業者から収入を得られれば、市の財政にとっても良い

ことです。

委員

府中市の人口は現在増加傾向ですが、何十年後かには減少局面に入り、高齢者の割合が多くなると思います。そうすると将来的には、例えばデイサービスの需要が増える一方で、学校の空き教室は増えることも考えられます。そのような時代ごとのニーズに合わせて様々な用途に転用できるフレキシブルな施設として整備することはできないのでしょうか。もし可能であれば建替えの際には検討したほうが良いと思います。

会長

用途転用についてはスケルトン・インフィルという考え方があります。例えば、江戸川区では学校を整備する当初から、将来事務所に変わることを想定した計画で造っています。新築のときだけでなく、改築、改修のときに実施することも考えられます。

第一次、第二次再編の検討を終え、将来の少子高齢化を見据えた第三次再編に取り組んでいる自治体もあります。府中市も現在は人口増加傾向ですが、将来を見据えた検討が必要です。

事務局

ご指摘のとおり、長い目で見ると市の人口は必ず減少していきますので、多機能化や、スケルトン・インフィルの考え方が必要になると考えております。しかし、市ではこれまで、そのような議論がなされておらず、ようやく公共施設のあり方を検討する体制が整ってきたため、本協議会の議論を基に、学校施設のあり方や活用方法を検討させていただきたいと考えております。学校施設は、公共施設として非常に重要なものと捉え、真っ先に整備してきたこともあり、現在は老朽化が進んでいます。今回のモデル事業は、学校施設を時代のニーズに合わせてどのように維持していくかを考えるきっかけとなります。

会長

学校施設の改修は進めなければなりません、大規模改修した場合、20～40年使い続けなければなりません。長期間、施設が残ることになるので、そのことも考えて取り組まなければなりません。また、学校を改修することで、学校施設以外の施設で改修できなくなるものも出てきます。

それでは、次第2「その他」について、事務局から何かありますか。

事務局

次回以降の協議会は先ほどご説明いたしましたように、1月と2月のあと2回の開催を予定しております。その日時を本協議会終了後にご調整いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会長

それでは、第4回の検討協議会を終了します。ありがとうございました。

※ 会議終了後、第5回検討協議会の開催日時を調整した結果、平成28年1月22日（金木）の午後2時からの開催を決定した。

以上